



今年の君津市民ふれあい祭りは、つい2、3日前までの梅雨空が嘘の様な恵まれたお天気の中で行なわれました。今年も大成功でありました。

1ヶ月前から準備が始まり、裏方を勤めてくださった会議所、市役所はじめ関係団体の職員の方たちの地道なご協力によるものであり、深く感謝を申し上げたいと思います。

「祭り」の中心となった「いやさか君津踊りの参加者」は50連3千人。それと沿道には応援・見物する人達が

溢れ、一段と祭りを盛り上げてくれました。

また、今年は同日に行なわれました「七夕祭り」も盛況に終わり、恐らく来年は倍以上の人出となり、祭りの輪は市内各地へと伝播してくれるでしょう。大変、楽しみであります。

来年の実行委員長は商工会議所であり、次の事項について検討できればと思います。

まず、祭りの経費については「ふれあい祭り、七夕祭り」合せて2千万円以上かかっております。

祭りの主な目的はその名称通り、市民が夏の一夜をふれあい、楽しみ、安らぐことであります。

今一つは、街の活性化であり、元気であります。そのためにも、経済効果が伴った祭りにしたいものです。

市の助成金と、商店街、企業の寄付によって運営される祭りが、にぎやか、人混み、光と音、喧騒だけで経済効果は・・・？

地元にうるおいが無いことが続けば、先細りしてしまう懸念があります。

経済効率から考えれば、経費2千万円としても少なくとも販売額1億円くらいの企画方法を考えたいものです。

動員計画として、今の参加者は市内の方達ばかりでありますので、この市から県外へと出られている人達をこの時期呼び寄せること、故郷が県外にある方は、故郷の人達を君津の祭りに招くこと・・・。

そして近隣の人達も合せて君津の街へ来てもらうこと。

高速バスで都会から君津へと観客を運び込むPR、工夫を是非してもらいたいものです。